

日銀短観(2009年9月調査)予測

当社は、10月1日に発表される日銀短観(2009年9月調査)の業況判断DIと設備投資計画の予測を行いました。業況判断DI(大企業)は、製造業は明確に改善しますが、非製造業はわずかな改善にとどまると見込まれます。設備投資計画(2009年度)は、6月調査に比べわずかに上方修正されることが見込まれます。

業況判断DI: 大企業・製造業 -33%ポイント、大企業・非製造業 -27%ポイント

設備投資計画: 全規模・全産業 -16.8%

【業況判断DI】

世界経済の回復に伴う輸出の持ち直し、エコカー減税やエコポイントなどの政策効果により、業況判断DIは製造業では明確な改善が見られるものの、非製造業ではわずかな改善にとどまり、足踏み状態となることが予想される。内需の回復力の弱さ、デフレ傾向が非製造業の足を引っ張る状況となっている。大企業製造業の業況判断DIは今回調査では-33と6月調査比15ポイントの改善、大企業非製造業の業況判断DIは今回調査では-27と6月調査比2ポイントの改善が見込まれる。中堅、中小企業についても同様の傾向で、製造業の改善に比べ、非製造業の改善は小幅なものにとどまると予想される。先行きについては、改善傾向が続くことが見込まれる。景気回復は緩やかながらも途切れず、非製造業にも徐々にその効果が波及してくると思われる。

業況判断DI

(「良い」-「悪い」、%ポイント)

		6月調査		9月調査	
		最近	最近	先行き	
大企業	製造業	-48	-33	-22	
	非製造業	-29	-27	-23	
	全産業	-39	-30	-22	
中堅企業	製造業	-55	-47	-40	
	非製造業	-36	-33	-29	
	全産業	-44	-39	-34	
中小企業	製造業	-57	-49	-42	
	非製造業	-44	-43	-39	
	全産業	-49	-45	-40	

【 設備投資計画 】

2009 年度の設備投資計画(全規模・全産業)は、前年度比-16.8%と、6 月調査比 0.3 ポイントとわずかな上方修正が見込まれる。製造業は小幅に上方修正されるものの、非製造業は小幅に下方修正されることが予想される。世界経済は回復傾向にあるものの、そのペースは緩やかな上、内需の回復力も弱いため、企業の設備投資意欲がなかなか戻らない状態となっている。生産の回復度合いが、ピーク時の 8 割に満たない状態では、設備投資を行うにしても、維持更新や合理化が中心となり、能力増強が不要な状態となっていることが、設備投資の足を引っ張っている。大幅なマイナスは、今後も大きく改善される可能性は低く、設備投資の回復は来年度に持ち越されると考えられる。

設備投資計画

(前年度比、%)

		2008 年度	2009 年度	
		実績	6 月調査 計画	9 月調査 計画
全規模	製造業	-7.4	-28.0	-26.3
	非製造業	-5.8	-11.2	-11.5
	全産業	-6.4	-17.1	-16.8
大企業	製造業	-7.2	-24.3	-22.9
	非製造業	-6.2	-0.8	-1.0
	全産業	-6.6	-9.4	-9.1
中堅企業	製造業	-8.1	-31.7	-30.1
	非製造業	0.9	-29.4	-30.5
	全産業	-2.0	-30.1	-30.4
中小企業	製造業	-7.7	-41.5	-38.9
	非製造業	-10.8	-34.1	-34.3
	全産業	-9.8	-36.6	-35.8

《 本件に関するお問い合わせ先 》 株式会社富士通総研 経済研究所 上席主任研究員 米山秀隆
電話 03-5401-8392(直通) E-mail: yoneyama.hide@jp.fujitsu.com

* 本資料は日銀記者クラブ、内閣府記者クラブにて配布いたしております。